

超速報!!

2015年10-11月上演決定!

新国立劇場〈演劇〉開幕作品
2015/2016シーズン

ブロードウェイ・ミュージカルの巨匠、ソンドハイムの傑作
ついに日本初演!!

パッション PASSION

トニー賞「最優秀ミュージカル作品賞」「優秀主演女優賞」「脚本賞」「楽曲賞」受賞作

作詞・作曲: スティーブン・ソンドハイム 台本: ジェームス・ラパイン

翻訳: 浦辺千鶴 訳詞: 竜 真知子 音楽監督: 島 健

演出: 宮田慶子

井上芳雄



和音美桜



シルビア・グラブ



福井貴一



ほか



新国立劇場

中劇場 ——— PLAYHOUSE

<http://www.nntt.jac.go.jp/play/> 〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1

★話題作続々、2015/2016シーズンの演劇
2015.1月中旬
シーズン・ラインアップ発表!!
乞うご期待!

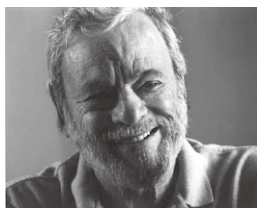
2015年10-11月、新国立劇場中劇場にミュージカルが躍る

NNTT版 PLAY BILL

about PASSION

1994年初演、トニー賞最優秀作品賞はじめ、主演女優賞、脚本賞、楽曲賞を受賞！
ミュージカル「パッション」がついに日本に上陸！！

♥ “ミスター・ミュージカル” スティーブン・ソンドハイム



新国立劇場では、これまでソンドハイムの作詞・作曲によるブロードウェイ・ミュージカルを2作、『太平洋序曲』（2000年10月／02年10月）と『Into the Woods』（04年6月／06年5-6月）を上演、いずれも好評で再演を果たしている。

ソンドハイムの名を一躍有名にしたのは、1957年の『ウェスト・サイド物語』の作詞。やがて『ローマで起こった奇妙な出来事』（62年）から作詞・作曲も手がけ、トニー賞の作曲賞を6回（71年から73年まで3年連続）、グラミー賞、ピュリッツァー賞、アカデミー賞のほか、08年にはトニー賞特別賞も受賞するなど、まさに、ブロードウェイ・ミュージカルを代表するソングライターだ。



▲新国立劇場『Into the Woods』（2006年）



映画

『Passione d'Amore（パッション・ダモーレ）』

ミュージカル『PASSION』のオリジナルはイタリア映画『Passione d'Amore（パッション・ダモーレ）』（監督：エットーレ・スコラ 1980年制作、日本公開84年）。80年ドナベッコ（イタリア・アカデミー賞）主演女優賞・助演女優賞、81年カンヌ映画祭特別表彰（エットーレ・スコラ）を受賞。

タイトルは、まさに“愛の情熱”。美男美女のめくるめく情熱の不倫愛の日々から一転、場所を変え、男の運命を変える別の女が登場、彼を闇の縁へと道連れに引き込む……。



監督のスコラは、64年に『もしお許し願えれば女について話しましょう』で監督デビュー。ネオレアリズモとイタリア喜劇の流れに社会性を盛り込んでいるのが特徴。この『Passione d'Amore』では、19世紀イタリアの雰囲気やバスタード調で表し、ロマンティックな教訓に満ちた映画に仕上がっている。



宮田慶子が語る『パッション』



スティーブン・ソンドハイムによる、奇妙で、危険で、どこかいびつな男女の関係を、官能的な旋律の楽曲で彩ったミュージカルがある、と聞いた時の、胸躍る感覚を今でも覚えています。特徴のある、ときには戸惑うような不協和音さえ織り混ざったメロディによって、人間の深い心の機微や、愛憎や、葛藤までも描き出すソンドハイム作品は、聴くものの心を掴んで離しません。

誰かをただひたすらに愛するその姿が、美しいものなのか、あるいは愚かなものなのか。

愛することの本当の姿を問いかけるドラマとともに、ソンドハイムの世界に身を委ねたいと思います。



〈あらすじ〉19世紀のイタリアを舞台に男女の奇妙な三角関係を描く。騎兵隊の兵士ジョルジオは、美しい人妻クララとの情熱的な逢瀬に夢中になっている。まもなく、ジョルジオはミラノから辺鄙な田舎への転勤を命じられ、その地で上官の従妹・フォスカと出会う。病に冒されているフォスカは、ジョルジオをひと目見て恋に落ち、執拗なまでに彼を追いかける。ジョルジオは彼女の愛情を鬱陶しく思っていたが、やがて――。



多彩で、魅力に富む出演者

『パッション』の舞台を彩るのは、主人公ジョルジオを演じる「ミュージカル界のプリンス」井上芳雄。ストレートプレイにも意欲的に取り組んでおり、新国立劇場での『負傷者16人—SIXTEEN WOUNDED—』（2012年）の熱演も記憶に新しい。今回は憧れだったというソンドハイム作品で新たな境地を目指す。2人のヒロインには、和音美桜とシルビア・グラブが競演。新国立劇場初登場の和音は宝塚歌劇団時代には実力派の娘役として「宝塚きっての歌姫のひとり」と評されたほど。片やシルビアは『Into the Woods』のシンデレラ役でも高い評価を得て、多くのミュージカルの舞台で活躍。さらに、数々のミュージカルとともにストレートプレイでも魅力を発揮している福井貴一など、魅力的な面々が顔をそろえ、『三文オペラ』にも参加した島 健が音楽監督をつとめる。

〈お問い合わせ〉

ボックスオフィス

Tel.03-5352-9999 (10:00~18:00)



新国立劇場

http://www.nntt.jac.go.jp